

平成20年 6月議会定例会 (第5回)



平成20年6月議会定例会は、6月17日から25日までの日程で開かれました。
一般質問は19日・20日の2日間行われ、4人の議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。
議案審議は25日に行われ、提出された7議案は全て原案通り可決されました。

今議会で可決された議案等の概要

(紙面の都合で内容は一部省略しています)

**平成20年度
一般会計補正予算**
既定予算の総額に42億1,920万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を、37億5,325万2,000円としました。

歳出の主な内容は、総務費・情報通信基盤整備工事(光ファイバー)設計業務3,000万円、ま

でいライフ推進事業費3,47万3,000円、民生費・自立支援訪問系サ

ビス給付費64万7,000円、衛生費・国保診療施設勘定繰入金△526万

6,000円、農林水産業費・堆肥舎整備事業補助

金50万円、水田作大豆・麦高生産化拡大推進事

業補助金110万円、もりの駅「まごころ」案内

板設置工事65万1,000円、有害鳥獣対策電気牧

柵設置補助金50万円、土

木費・道路維持補修費3億4,200万4,000円、公営住宅共益費関連経費△1億6,900万7,000円、教育費・県域づくり総合支援事業(サポート事業)補助金62万3,000円、外国青年招致事業費76万9,000円、災害復旧費・村単災害復旧事業補助金308万円などで、これらの財源として、国県支出金、村債、繰越金等を充当しています。

**平成20年度
国民健康保険特別会計
補正予算**
事業勘定の既定の予算の総額に1億3,380万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を8億7,883万3,000円としました。

事業勘定の歳出の主なものは、退職被保険者分療養給付費4億9,950

0円を追加し、歳入歳出予算の総額を8億7,883万3,000円としまし

た。

事業勘定の歳出の主なものは、退職被保険者分療養給付費4億9,950

0円を追加し、歳入歳出予算の総額を8億7,883万3,000円としまし

た。

事業勘定の歳出の主なものは、退職被保険者分療養給付費4億9,950

0円を追加し、歳入歳出予算の総額を8億7,883万3,000円としまし

た。

平成20年度 農業集落排水事業 特別会計補正予算

既定の予算総額に、48万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を6億5,178,000円としました。
歳出の内容は、草野地区処理施設修繕料48万3,000円です。この財源として一般会計からの繰入金金を充当しています。

平成20年度 飯館村国民健康保険税 条例の一部改正

これは、平成20年度国民健康保険税の課税に伴う税率等の改正に加え、後期高齢者医療制度施行に伴う関連条項の追加による改正です。
それぞれの経費を賄うため、平成20年度一般被保険者の一人当たり保険税を、後期高齢者支援分を含め、6万5,797円(前年度に比べ2,602円の増)、また、一般被保険者の一人当たりの介護納付金を、2万2,680円(前年度に比べ327円の減)としました。

平成20年度介護保険特別会計補正予算

既定予算の総額に、2億3,350万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額

まていな子育て 保健室設置条例の 一部改正

これは、村内に住所がないと施設を利用することができなかつたものを、働く保護者の子育て支援

村長村政報告

(紙面の都合で内容は一部省略してあります)

春季検閲式

4月13日草野小学校校庭で行われました。
当日は消防団員、女性消防隊員など約200人が参加し、防火意識を新たにしました。



▲観閲のようす

いいたて夏まつり

6月11日に第1回実行委員会を開催し、今年7月26日に「村民の森あいの沢」で開催することとしました。

今回のイベントのテーマは、昨年に引き続き、

「飯館牛の消費拡大」と名付け、飯館牛と村の特産物等を村外に発信し、交流人口の増と村民の所得向上、さらには村の活性化につながるために賑わいのある祭りになりたいと考えています。



▲昨年の夏まつりのようす(模擬店)



▲「極上牛丼」を味わう来場者

入札制度改革

昨年7月から試行してきた予定価格300万円以上の工事にかかわる「予定価格の事前公表」については、試行期間中の実績から、一部を除き、競争性の面で効果が薄いと判断し、平成20年度からは試行を取りやめることとしました。新たな入札制度の改革については、引き続き指名委員会等で検討していきたいと考えています。

ニュートラック売得金の平成19年度売得金及び入場者数実績

売得金については8億1075万2700円で前年度に比べ、1億4482万500円、率にして17・9%の大幅な減となっています。

一方、入場者数も4万3082人で、前年度に比べ5441人の減となっています。売得金

平成19年度ごみ収集状況

可燃ごみは277・2ト、前年度より23・5ト、率にして約7・8%の減、不燃ごみは144・5ト、前年度より2・1ト、率にして約1・5%の増となっています。

一方、資源回収はプラスチック容器包装が約14・6%増、紙類が5・1%減、缶類とビン類は8・2%の減になっており、全体で323・5ト回収しました。

昨年の10月から有料化した粗大ごみについては、9月までの無料化の期間までに14・1ト集積されたのに対し、10月から3

入場者数ともに減少した主な要因は、近年の景気低迷による影響が大きいものと分析しています。

なお、19年度の村への交付金は、売得金の1%にあたる810万7527円となっています。

月までは0・7トと極端に少なくなっています。これは、粗大ごみ搬入が無料のうちに多く搬出されたこと、有料化になったばかりで、まだ車両1台分にならずに家庭内にあるのではないかと考えています。

心配されることは有料化に伴い不法投棄が増大することですので、今後も各行政区長及び環境衛生推進委員等との連携を図り、不法投棄を一件でも少なくするよう啓蒙していきたいと考えています。

村交通安全防犯・防災の組織再編

昨年1年間、新たに、交通安全・防犯と防災も含めて組織を一本化し、「飯館村生活安全協議会」として運動を展開し、交通安全部会、防犯部会、防災部会の3つの部会でそれぞれの部会長を中心に実践・活動を行いました。

た。また必要に応じ、関係行政機関及び団体等と緊密な連携をとり、効果的な活動の推進を図ることができたと思っております。



▲会議のようす

今後とも、飯館村生活安全協議会を軸として、住民の自主的な生活安全運動の推進が図られ、犯罪、事故及び災害等が未然に防止され、安全で住みよい生活環境が創り出されるよう努力していきたいと考えています。

平成19年度村税収入状況

4月に副村長を本部長とした「村税収納率向上特別対策本部」を設置し

て、4～5月の2ヵ月間管理職全員による訪問徴収を実施し、納付催告と相談を行ったところですが、ほぼ前年並みの収納率を確保することが出来ています。

滞納繰越額は、合計で1億5232万円となっており、依然として厳しい状況ですが、今年に入り2件の大口滞納額を全額（約1400万円）納入していただくなど、相当改善された収納となっています。

飯館村統合診療所整備検討

5月8日に「飯館村統合診療所整備検討委員会」を設置し、具体的な整備検討に入りました。委員会は、公共団体等



▲第1回の検討委員会のようす

の代表者と学識経験者10人で組織し、任期は1年で、委員長には福島大学の鈴木典夫准教授が就任されました。

委員会へ諮問した内容は、1点目は「運営形態を公設民営とすることについて」、2点目は「基本的な機能について」、3点目は「住民が使いやすい診療所とするため」の3点です。

今後、8月頃までに最終答申をいただき、9月以降には村民説明会を行う予定です。

不要入れ歯回収ボックス設置

5月15日に草野診療所と飯樋診療所の歯科窓口「不要入れ歯回収ボックス」を設置しました。



▲設置された入れ歯回収ボックス

この回収ボックス設置は、先の村議会の質問に応えたもので、不要入れ歯に含まれている金や銀、パラジウム等の貴金属をリサイクルし、益金はそれぞれ40%ずつを日本ユニセフ協会を通じて世界の恵まれない子どもたちと村社会福祉協議会に寄付されるものです。

不要入れ歯については、今まで捨てられたり、焼却されたりしていましたが、今後は回収ボックスに寄付されるようPRに努めていきます。

子育て応援交付金事業

6月5日に大豆の種まきが行われ、2年目となる食育による子育て事業がスタートしました。大豆の種まきをしたのは、白石小学校の児童と保護者70人で、草野字赤坂地内の畑30㎡に種まきをしました。

大豆たんばく質は、メタボリックの予防に役立つことが分かっていますので、今年も食を考えると連携して、引き続き大豆による食育の推進と子育て支援に取り組んでいきます。



▲豆の種まきのようす

保育所民営化

4月1日より「やまゆり保育所」が村からいたて福祉会に移管され、実質、民営化がスタートしました。6月1日現在の保育園児数は41人です。これからも保育の1層の充実と事故等が起きないよう継続して行政指導をしていきたいと思えます。

産地づくり交付金

5月9日に平成20年度の「産地づくり交付金」に対する要請書を、飯館村、飯館村農業委員会、JAそうま、飯館村水田農業対策推進協議会の4者連携により、県に提出しています。

米価低迷の中で、米の過剰生産が依然として続いており、これを打開するため国の「転作面積を拡大する緊急対策」が、今年の3月より実施されています。村ではこの対

村防霜対策本部

4月8日に設置し、霜害の防止に努めてきたところですが、今年は大きな霜害はなかったようです。

ただ、村の転作物として重点的に推進しているブロッコリーの作付け水田が、4月18日～19日にかけての集中豪雨による冠水で根腐れ等が発生し、面積にして6・9ha、金額にしておよそ42万円ほどの被害を受けています。

有害鳥獣捕獲隊

ここ数年、農作物の被害が急激に拡大している。猿、イノシシ等の有害鳥獣に対する捕獲隊を編成しており4月7日に編成しました。

今年は隊員数を2人増員して、25人体制で対応することとしています。



▲捕獲隊編成会議のようす

今年も昨年と同様2人1組の班を編成して、農作物の被害が開始する6月初めから10月中旬まで、被害が予想される地

域を重点に毎日パトロールを行い、被害を未然に防止するよう捕獲隊の協力をいただいています。また、昨年に引き続き、獣害防止のための電気柵の補助も行いながら、農作物の被害防止に努めていきます。

大雨による被害

4月18日～19日の大雨による道路や農地等の被害状況ですが、総雨量は270mmを記録し、この大雨により村道19カ所、林道3カ所、農地等41カ所、計63カ所の被害報告を受けています。

特に、農地等災害の前年度の台風4号と9号による本災工事箇所14カ所が、法面張芝の発芽前に崩壊しました。その内早急に復旧しないと耕作に支障を来す11カ所については専決予算で対応しました。

また、村道・林道については、現予算の中の維

持補修費で対応しましたが、今後の維持補修のための予算が不足します。今6月議会に補正予算を提出しています。なお、前年度の台風4号と9号による8カ所の繰越災害工事につきましても、工期内に竣工の予定です。

企業立地支援事業

(株)菊池製作所の第6工場の新築工事につきましても、5月29日に村企業立地審議会を開催し、委員の方に工事の内容を確認いただき、支援することに承認していただきました。

菊池製作所では、工場の建築を7月中旬に着工し、10月末には竣工させて、12月始めの操業開始を目標に取り組んでいるようです。

操業時は、新たに25人程度の新規雇用を予定しており、順次雇用を増員し、同工場では50人程度

の従業員数になるようです。村としても、増築による生産性の向上に伴い、雇用増や村民の就労の場の確保、さらには村民所得の向上に大いに寄与するものと期待しています。

飯館村産地形成促進施設「もりの駅まごころ」

昨年11月1日のオープン以来、冬期間の農産物の出荷量は少なかつたものの、懸念されていた客足も交流イベントの開催や、生産農家をはじめ関係者による、新たな漬物や加工食品の製造、販売などの取り組みの結果、それほど落ち込みもなく、春を迎え現在では村内外から多くの利用があるようです。

今後は、農産物の計画的な生産と出荷計画の把握や調整に努め、周年を通して安定した経営につながるよう指導していきたいと考えています。

「いいたてまでい流 情報・交流事業」

昨年に引き続き採択され、4月29日から5月6日までの8日間「春のワクワクまつり」を開催いたしました。



▲ワクワクまつりのようす



▲試食コーナー（米粉パン）

期間中、村内各直売所と連携したスタンプラリーや飯館産のそばによる手打ちそばをはじめ、米粉パン、ヤーコンうどんの試食、伝統芸能発表、

地産地消の取り組み

村の立村50周年記念ビデオの放映など、期間中延べ2500人の人出があり、大変好評のうちに終えることができました。

今年の4月9日から村産米使用による米粉パンの学校給食への提供を始めており、去る6月12日には地産地消の村民会議を17人によりスタートしました。

今後新規作物加工・飯館牛の給食提供、牛肉新メニューの取り組み、濁酒（どぶろく）を始めとした農産加工品等の販路拡大支援、さらに地産地消啓蒙普及のための情報誌の発行などを行い、積極的に推進していきたくと考えています。

教育委員の動向

5月19日に開催されました福島県市町村教育委員会連絡協議会総会の席上で、本村教育委員長の

佐藤隆明氏が副会長に就任されました。あわせて、東北6県連絡協議会の代議員にも就任され、本村教育行政のみならず、福島県の代表として東北地方の教育委員会活動の発展に尽力されることとなりました。益々のご活躍を期待しています。

学力向上の取り組み

今年度から「学校教育指導員」を配置し、各学校の教育活動に対し指導助言をいただいています。指導員には、スクールカウンセラーとして平成18年度から飯館中学校で相談業務に当たっている海野和夫先生を委嘱し、カウンセリング業務のほかに、月3回程度来村していただいています。

スクールカウンセラーとして村の子どもたちの状況を把握されており、また、豊富な指導経験をお持ちですので、学力向上及び生徒指導に結びつ

く適切なご指導をいただけるものと期待しています。

米粉パンの給食

4月より米粉パン給食を開始しました。



▲草野小での米粉パン給食のようす

米粉パンは、もりの駅「まごころ」で生産されたもので、毎月2回のパン給食の日に毎回1～2校ずつ順番に提供しています。

米粉パンは、独特の食感が子どもたちに好評で、また、地産地消の推進や食材の意外な取り合わせなど、食育の有効な教材としても使用できると思っっています。

はやま湖駅伝

4月29日に大倉地区はやま湖周辺を会場に、大倉行政区並びに村体育関係機関等のご協力を得て実施しました。

参加チームは男子10チーム、女子5チームの計15チームで、今年も村外から多くの参加をいただき、白熱した大会となりました。



▲健闘した村内チーム

ユニバーサルデザイン講習会

5月21日に「ユニバーサルデザイン講習会」を開催しました。



▲講習会のようす

これは本年度、県のおつくり基金の助成を受けて「NPO法人ユニバーサルデザイン・結」との協働事業「ユニバーサルデザイン思いやり推進事業」について、村とNPOが協働で取り組む「ユニバーサルデザイン」の考え方や本年度の事業内容の取り組み方を村民の皆様や事業に関連する方々にご理解をいただくため開催しました。当日はおおよそ40人の出席があり、当事業の内容を十分理解していただいたものと考えています。